

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 20 年 1 月 17 日 (2008.1.17)

【公開番号】特開 2006-154061 (P2006-154061A)
 【公開日】平成 18 年 6 月 15 日 (2006.6.15)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-023
 【出願番号】特願 2004-342039 (P2004-342039)
 【国際特許分類】

G 0 3 G 15/20 (2006.01)

【F I】

G 0 3 G 15/20 5 5 5

G 0 3 G 15/20 5 0 5

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 11 月 26 日 (2007.11.26)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 5】

二次転写後に中間転写ベルト 6 上に残った二次転写残トナーは中間転写ベルトクリーニング手段 1 5 により除去される。本実施例においては、感光体ドラム 1 のクリーニング手段 4 と同様、ウレタンプレードによる中間転写体クリーニングを行っている。

上記において、各プロセスカートリッジ Y・C・M・K、レーザー走査露光光学系 5、中間転写ベルト 6 等が、記録材上に複数色のトナー像の重なりからなる未定着カラー画像を形成する作像手段部である。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 8
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 8】

1) 装置 F の全体的構成

2 0 は記録材の画像面に接する加熱部材としての定着ベルト（第一の定着部材）である。この定着ベルト 2 0 はベルト状部材（ベルト基材）に弾性層を設けてなる円筒状（もしくは、エンドレスベルト状またはスリーブ状）の部材である。より具体的には、図 4 にその層構成模型図を示したように、例えば、ポリイミド樹脂を厚み約 5 0 μm の円筒状に形成したエンドレスフィルムを基層 2 0 a とし、その外周面に弾性層 2 0 b として厚み約 3 0 0 μm のシリコンゴム層をリングコート法により形成し、その上に離型層 2 0 c として厚み約 3 0 μm の P F A 樹脂チューブを被覆してなる。シリコンゴム層には、極力熱伝導率の高い材質を用い、定着ベルト 2 0 の熱容量を小さくすることが、温度立ち上げの観点からは望ましい。カラー画像においては、複数色のトナー層を重ねて混色させ使用するので、トナー層の凹凸が白黒画像に比べて大きく、定着部材である定着ベルトに弾性層が無い場合、定着画像の光沢ムラが大きくなって画像品質を劣化させたり、記録材が O H T の場合は、定着画像を投影した際に透過性が悪かったりして、画像品質の低下があった。弾性層を有する定着ベルトを使用することで、この点の改善がなされる。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 5 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 5 1 】

ステップ S 1 0 1 で端部サーミスタ 1 9 の検知温度が 2 5 0 を越えた場合、すなわち小サイズ記録材の連続プリント（連続通紙）のために非通紙部昇温が許容上限近くに至った場合は、中央部サーミスタ 1 8 の検知温度（温度情報）に基づく定着装置 F の温度制御モードから、端部サーミスタ 1 9 の検知温度に基づく定着装置 F の温度制御モードを選択するもので、端部サーミスタ 1 8 の検知温度が 2 5 0 になるように、ヒータ駆動回路部 2 8 から定着ヒータ 1 6 への通電を制御して温度制御する（S 1 0 2）。